

管理栄養学科1期生のキャリア支援のための調査研究

Study Research for the Career Support of the First Grade Department of Health and Nutrition

上村 芳枝・小田 光子・前大道教子・横山しつよ・古川 真一
平田 健・寺岡千恵子・川人 潤子・沖本 久恵・宮原 祐徹

Yoshie KAMIMURA, Mitsuko ODA, Noriko MAEOMICHI, Shitsuyo YOKOYAMA,
Shinichi FURUKAWA, Takeshi HIRATA, Chieko TERAOKA, Junko KAWAHITO,
Hisae OKIMOTO and Yutetsu MIYAHARA

本調査研究は平成30年3月に卒業する健康栄養学部管理栄養学科1期生が自ら希望する職場等に就くことができることを目指して、キャリア支援対策を平成28年度重点事業として取り組んだ。平成26年4月に管理栄養士養成課程として認可され開設し、社会のニーズに対応できる管理栄養士の人材養成を行い、卒業後の職場として、病院、高齢者福祉施設、保育所、食品会社等で管理栄養士として活躍できるように、参与2名の協力を得て企業の情報収集や就職活動に必要な就活支援を学科一丸とした取り組んだ報告書である。今後の就職支援に役立てることを目的とする。

I. 目的

本調査研究は、平成30年3月に卒業する健康栄養学部管理栄養学科1期生が自ら希望する職場に就職することを目指したキャリア支援対策を参与の協力を得ながら本学科教員が一丸となって取り組んだ学科重点事業である。管理栄養学科は、平成26年4月の開設を申請し、管理栄養士養成課程が認可・開設された。社会のニーズに対応できる管理栄養士の人材養成を目指している。その道のりには、管理栄養士国家試験に合格をすることと学生が希望する職場となる病院、高齢者福祉施設、保育所、調剤薬局並びに食品会社等での管理栄養士として勤務し、社会に貢献することを目指している。ここでは、後者の自分が希望する職場への就職活動のキャリア支援を目的としている。文部科学省におけるキャリア教育・職業教育の取組（平成26年12月）には、「キャリア教育は社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア（人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との役割の関係を見出していく連なりや積み重ね）発達を促す教育である。初等中等教育から高等教育まで、発達の段階に応じ体系的に実施している。学校における教育活動全体を通じ、基礎的・汎用的能力を中心に育成する。職業教育は一定又は特定の職業に従事するために必要な知識・技能、能力や態度を育てる教育」¹⁾と示されている。

本学のキャリアセンターでは、1人ひとりの学生が『スキ』を生かせる仕事に就けるよう、支援体制を整えて1年次から段階的なキャリア形成に取り組むため、3つのプログラムを行っている。1. 就職活動支援プログラム（正課外）、2. キャリア形成支援プログラム（正課内）は、社会ニーズに対応する「学生支援推進プログラム」として平成21年度に文部科学省から選定され支援強化をしてい

る。3. キャリア支援講座（就職対策・資格取得対策）（正課外）がある。しかし、本学科では今回が1期生へのキャリア支援活動であるので学生への対応を強化するために、管理栄養学科1期生のキャリア支援のための調査研究を重点事業として取り組むことになった。事業としては学生の自己分析、自己の適性を判断して入社する業界・企業の研究、履歴書の作成、企業訪問による就職活動、就職試験・面接対策等の個別活動をいかに、具体的に推し進めて内定先を得ることを目指し、さらに、就職要件である3月の管理栄養士国家試験に合格するという一連の道のりを辿る。本学科の教員が担う重要な役割と考え、計画・実施・結果・考察を行った報告書である。1期生並びに2期生以降の学生へのキャリア支援に役立つことを願ってやまない。

II. 方 法

1. 調査する主体

管理栄養学科1期生のキャリア支援のための調査研究を実施するにあたり、学生及び企業等の就職活動に関する実態を把握することを目的として調査票を作成した。

この調査研究のワーキングメンバーは本学科教員10名とし、調査票の原案をキャリア委員が作成して科会に諮り決定後に、調査を実施した。

2. 学生対象とした就職希望調査

学生対象とした就職希望調査は管理栄養学科3年生54名とした。調査時期は平成28年7月18日無記名記入式質問紙法とし学生54名に配布し有効回収率は100.0%であった。

調査内容は就職希望分野とその理由、就職に向けての自己研鑽、家族の支援、就職への期待と不安等、就職について知りたいこと等とした。

3. 企業等対象とした求人に関する実態調査

調査を依頼する企業等の選出は、本学科が開学時に事前調査を依頼した企業、参与が事前訪問をした企業、並びに学生が臨地実習をする企業の中より選んだ930件とした。調査時期は平成29年1月16日に、企業の人事担当者宛に求人等に関する調査用紙を郵送して調査依頼並びに調査票の返信を依頼した。有効回収数は364件（39%）であった。調査内容は栄養・給食に関する規模（食数等）、主な管理栄養士業務、管理栄養士・栄養士の求人数、管理栄養士に望む人材像・スキル、直営・委託の区分、採用時の選考方法等とした。

4. 企業訪問による就職情報の収集

参与による企業訪問は、平成28年8月～平成29年3月に、管理栄養士に関係する企業等（約150社）を訪問し平成29年度求人に関する新卒管理栄養士の就職情報を収集した。さらに、本大学の卒業生の在籍状況を調べ、その情報は本学科のチューターにその都度報告をして教員が情報を共有した。

5. キャリア支援マニュアルの作成・研修会の開催

参与が中心となって9個のキャリア支援マニュアルを作成して学内のWeb情報管理システム上に掲載し、学生がこのマニュアルを参照して履歴書作成等に活用できるようにした。内容は自己分析ひな形、志望動機ひな形、エントリーシートひな形、履歴書ひな形、面接Q&Aひな形、作文のひな形、実績報告ひな形、内定礼状・辞退ひな形、書類送付文ひな形である。

つぎに、学生向けのキャリア支援マニュアル等使用に関する研修会を学生向け並びに教員向け研修会をそれぞれ開催した。チューターは学生の就職希望先等についての個人面談を行ない、学生が就職を希望する職場等に関する資料を収集し、それらを話題とする就職支援活動のマッチングについて、キャリアセンター室長、参与、該当するチューター、部長、主任並びにキャリア委員による会議を開催した。

6. キャリア教育の先進地の大学視察

先進地の大学として平成20年4月に管理栄養士養成校を開設したF大学に視察の依頼をし、了承されたので訪問してキャリア支援活動に関する情報を収集した。

時期は、平成29年2月23日、面接にはF大学の管理栄養士養成校の学科長、就職担当教員、学科教員の3名が応じてくださり、就職活動・支援についての説明を受けた。本学より健康栄養学部管理栄養学科教員2名が訪問した。調査した内容は、貴学科でのキャリア支援活動の体制、具体的なキャリア支援活動の実施方法等である。

Ⅲ. 調査研究結果

1. 本学科学生の就職希望実態調査

対象者の属性を表1に示す。

男性6名、女性48名、居住地は広島市57%、廿日市市11%等であった。居住地より広島近隣が殆どであるが、他県での就職希望が予測された。

表2に、7月での本学生（3年次）の進路対策を示す。

希望進路をみると、進学希望2%、就職希望96%、進学か就職か迷っている者2%であった。勤務地の希望は、広島県内70%、正社員希望93%であった。つぎに、就職活動をする上で知りたい内容は、エントリーシート、履歴書の志望動機・自己紹介の書き方は80%、面接の方法77%が高かった。

表1 対象者の属性 (%)

項 目		54
性別	男性	11.1
	女性	88.9
居住地	広島市	57.4
	廿日市市	11.1
	東広島市	5.6
	安芸郡海田町	3.7
	三原市	3.7
	竹原市	3.7
	福山市	3.7
	呉市	1.9
	大竹市	1.9
	安芸郡坂町	1.9
	岩国市	1.9
	その他	3.7
栄養教諭免許の履修中	している	22.2
	していない	77.8

表2 学生の進路対策

(%)

項目	54	
進路への意識	進学を考えている	0.0
	就職を考えている	96.3
	進学か就職のどちらかを考えている	3.7
	全く考えていない	0.0
進学への意識	大学院進学したい	1.9
	留学したい	0.0
就職先の住所	県内	70.4
	県外	11.1
	どちらでもよい	24.1
職務要件	正社員	92.6
	契約社員	0.0
	どちらでもよい	7.4
求人情報の入手方法	大学のキャリアセンター	72.2
	ネットの求人情報	50.0
	求人情報誌	42.6
	知人	11.1
	ハローワーク	24.1
	その他	5.6
就職活動状況	自己分析をしている	24.1
	筆記試験の準備をしている	11.1
	自己PRの書き方を検討している	7.4
	職種・施設等を調べている	5.6
	グループディスカッションの準備をしている	5.6
	会社訪問の資料を請求中	3.7
	面接の練習をしている	1.9
就職の相談相手（複数回答）	家族	68.5
	大学の先生	42.6
	知人	42.6
	キャリアセンター	16.7
	高校の先生	3.7
	ハローワーク	3.7
	相談していない	5.6
就職活動上、知りたい内容	エントリーシートの書き方	79.6
	履歴書志望動機の書き方	79.6
	履歴書自己紹介の書き方	79.6
	企業施設等の就職内容の情報収集の方法	55.6
	会社の業績・将来性の情報収集の方法	44.4
	面接の方法	77.8
	転勤の有無	22.2
	その他	1.9
	アルバイト状況	している
していない		13.0
アルバイトの時期	ウィークデー	64.8
	休日のみ	20.4
	長期休暇のみ	9.3
アルバイトの頻度	週に1~2日程度	25.9
	週に3~5日程度	57.4
	月に1~3日程度	3.7
現在、活動している課外活動等	クラブ活動・同好会活動	24.1
	ボランティア活動	9.3

表3に、学生が本学科で取得できたスキルをみると学生が身についたと思うスキルにはチームワーク、コミュニケーション、傾聴・受信力がそれぞれ約5割であった。

表3 学生が取得できたスキル・専門知識

(%)

項目	54	
4×3の比治山力で取得できたスキル	チームワーク	51.9
	コミュニケーション	50.0
	傾聴・受信力	42.6
	発想力	27.8
	情報収集力	25.9
	課題設定力	18.5
	企画・計画力	16.7
	自己省察力	16.7
	プレゼンテーション	16.7
	創造・表現力	13.0
	論理的思考力	11.1
	イノベーション	1.9
	修得できた専門知識	管理栄養士の役割
給食経営管理		53.7
社会・環境と健康		44.4
栄養教育		44.4
ライフステージ別栄養管理		40.7
栄養・食事管理		40.7
健康づくりの身体活動		37.0
栄養の基本的概念		35.2
食事摂取基準		35.2
食品の分類・成分		31.5
食事設計		29.6
人体の構造		27.8
食品の生産・加工		27.8
カウンセリング・行動変容		27.8
疾患の原因・病態		24.1
栄養管理のあり方		20.4
公衆栄養活動		20.4
傷病者、要支援の栄養管理		16.7
栄養素の代謝		14.8
スポーツの特性		13.0
栄養政策	13.0	
保健・医療・福祉	7.4	
自己分析で伝えたいこと	高校時代に比較して成長できている	51.9
	人と共同作業をすることが得意である	38.9
	有意義な大学生活を送っている	25.9
	自己管理がきちんとできている	22.2
	周囲から信頼されている・親しまれている	22.2
	人に頼らず行動できている	20.4
	アイデアが豊かである	16.7
	長所がたくさんある	11.1
	自分の未来はとても明るい	9.3
	社会や企業から認められるものを持っている	5.6
取得・取得中の免許・資格・検定	管理栄養士国家試験受験資格	88.9
	栄養士免許証	88.9
	自動車運転免許証	66.7
	日本語ワープロ検定1級・2級・3級	42.6
	表計算(エクセル)1級・2級・3級	31.5
	栄養教諭第1種・2種免許状	24.1
	調理師免許	13.0
	文書デザイン検定1級・2級・3級	13.0
	食生活アドバイザー検定	11.1
	プレゼンテーション作成検定	7.4
	情報処理技能検定(データベース)	1.9
	その他	9.3

表4に、学生が希望する業界・職種・施設を示す。

学生が希望する業界は、医療・福祉・教育54%、製造30%であった。職種では管理栄養士87%であった。

表4 学生が希望する業界・職種・施設

(%)

項 目		第1希望	第2希望	第3希望
人 数		54	54	54
就 職 希 望 業 界	医療・福祉・教育（病院・社会福祉施設・保育園・幼稚園・学校教諭・各種学校）	53.7	24.1	11.1
	製造（生活系）（食品・医療・化粧品・文具・事務機・スポーツ用品・ゲーム機器）	31.5	31.5	11.1
	公務（国家公務・地人公務・警察・消防）	7.4	13.0	13.0
	商社・卸売（総合商社・専門商社・問屋）	1.9	0.0	3.7
	その他	1.9	1.9	1.9
	サービス（飲食・宿泊・旅行・レジャー・運輸・エネルギー・不動産）	0.0	13.0	14.8
	流通・小売（百貨店・チェーンストア・生協・専門店・小売店）	0.0	3.7	24.1
	金融（銀行・信金・信組・農協・信販・消費者金融・保険・証券・商品先物取引）	0.0	3.7	1.9
	製造（建設系）（建設・住宅・プラントエンジニアリング）	0.0	1.9	0.0
	情報・通信（情報処理・ソフトウェア・通信・マスコミ）	0.0	0.0	3.7
	製造（その他）（農業・林業・印刷・パッケージ・建材）	0.0	0.0	1.9
	未記入	3.7	7.4	13.0
希 望 職 種	管理栄養士	87.0	7.4	3.7
	栄養教諭	3.7	11.1	7.4
	事務職	3.7	7.4	22.2
	栄養士	1.9	53.7	14.8
	サービス職	1.9	7.4	14.8
	製造職	1.9	7.4	3.7
	販売職	0.0	3.7	13.0
	営業職	0.0	0.0	13.0
	その他	0.0	0.0	1.9
未記入	0.0	1.9	5.6	
管 理 栄 養 士・栄 養 士・ 栄 養 教 諭 の 免 許 生 か し た 施 設	食品企業	24.1	11.1	18.5
	医療機関	22.2	13.0	5.6
	保健所・保健センター（公務員）	14.8	13.0	7.4
	保育園・幼稚園	13.0	20.4	14.8
	高齢者福祉施設	7.4	1.9	1.9
	学校（小・中学校）	7.4	11.1	7.4
	スポーツ関係施設	5.6	13.0	1.9
	管理栄養士・栄養士・調理師養成施設	1.9	1.9	5.6
	管理栄養士の免許を生かした就職を考えていない	1.9	1.9	3.7
	介護保険施設	0.0	3.7	3.7
	薬局	0.0	1.9	1.9
	乳児院	0.0	1.9	3.7
	社会福祉施設	0.0	1.9	5.6
	障がい者福祉施設	0.0	0.0	3.7
	寄宿舎	0.0	0.0	3.7
	未記入	1.9	3.7	11.1

2. 企業対象の求人等に関する実態調査

表5、表6に、アンケートに回答した企業等の所在地を示す。

企業等（364件）の所在地をみると、広島県96%の349件、他県14件であった。また、企業等の業種をみると、病院・診療所123件（34%）、高齢者福祉施設106件（29%）、保育所等64件（18%）、給食委託会社15件（4%）、スポーツ関連3件（1%）であった。

表7に、企業が管理栄養士・栄養士に求める能力を示す。

企業が管理栄養士に求める能力には、協調性79%、意欲79%、適応力71%、自主性55%であった。また、管理栄養士に求めるスキルとして、大量調理施設衛生管理マニュアルを熟知している35%、予算に応じた献立作成ができる34%、栄養量に合わせた食品構成表を作成することができる31%、病態別の栄養管理（含む栄養教育）ができる30%であった。

表8に、企業が管理栄養士・栄養士に求めるスキルを本学でのスキル別に示す。

表5 施設等の所在地 (%)

項目	364
広島県	96.2
山口県	0.0
島根県	0.3
愛媛県	0.0
その他	3.6

表7 企業が管理栄養士・栄養士に求める能力 (%)

項目	364
協調性	79.1
意欲	78.8
適応力	71.2
自主性	55.2
一般教養	48.6
持続力	44.2
ストレス耐性	39.8
規律性	33.8
共感力	30.5
情報収集力	23.4
自己統制力	21.7
発信力	17.3
指導性	16.8
創造的態度	14.0
IT適応力	12.1
論理性	10.2
現実的態度	9.3
説得力	8.2
国際性	0.8
その他	5.5

表6 施設等の業種 (%)

項目	364
病院、診療所	33.8
高齢者福祉施設	29.1
保育所、子ども園、幼稚園	17.6
障がい者福祉施設	5.8
食品製造業	5.5
給食委託会社	4.1
飲食業	3.6
児童福祉施設	3.0
ドラッグストア、薬局	1.6
スポーツ関連の施設・企業	0.8
その他	12.1

表8 企業が管理栄養士・栄養士に求めるスキル

項目	大量調理施設衛生管理マニュアルを熟知している		予算に応じた献立作成ができる		栄養量に合わせた食品構成表を作成することができる		病態別の栄養管理(含む栄養教育)ができる		調理技術を身につけている	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
総数	364	100.0	364	100.0	364	100.0	364	100.0	364	100.0
非常に求めている	126	34.6	123	33.8	113	31.0	110	30.2	96	26.4
やや求めている	128	35.2	127	34.9	153	42.0	121	33.2	127	34.9
どちらでもない	45	12.4	51	14.0	40	11.0	53	14.6	68	18.7
あまり求めていない	11	3.0	12	3.3	9	2.5	22	6.0	18	4.9
全く求めていない	7	1.9	7	1.9	4	1.1	11	3.0	9	2.5
不明	47	12.9	44	12.1	45	12.4	47	12.9	46	12.6
項目	ライフステージ別に健康・栄養管理ができる		栄養カウンセリングができる		栄養療法(経静脈・経腸等栄養ルートや栄養剤の選択等)ができる		日本の健康課題について理解している		健康食品・サプリメントについて理解している	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
総数	364	100.0	364	100.0	364	100.0	364	100.0	364	100.0
非常に求めている	91	25.0	80	22.0	57	15.7	46	12.6	21	5.8
やや求めている	158	43.4	155	42.6	122	33.5	163	44.8	120	33.0
どちらでもない	53	14.6	65	17.9	79	21.7	81	22.3	122	33.5
あまり求めていない	12	3.3	17	4.7	41	11.3	21	5.8	47	12.9
全く求めていない	2	0.5	3	0.8	19	5.2	1	0.3	6	1.6
不明	48	13.2	44	12.1	46	12.6	52	14.3	48	13.2

企業が求めているスキルの割合が高い順にみると、栄養量に合わせた食品構成表を作成することができる73%、大量調理施設衛生マニュアルを熟知している70%、予算に応じた献立作成ができる68%であった。表9に採用計画を示す。平成28年1月時点での計画を伺うと、計画を完了と検討中は合わせて49%であった。表10に、求人通知方法を示す。大学へ求人票を送付する74%、ハローワークから求人する58%、ホームページに掲載する49%であった。

表11に平成30年度管理栄養士・栄養士の新卒採用予定を示す。予定している45件、検討している35件で、合わせて80件(22%)であった。

表9 平成29年度(平成30年4月採用)の計画(%)

項目	364
採用計画を概ね完了している	25.0
検討中である	23.9
これから検討する	6.6
現在、採用計画は未定である	22.8
平成29年度の新卒採用は考えていない	15.4

表10 新卒採用の求人通知方法(%)

項目	364
大学へ求人票を送付する	73.9
大学を訪問し依頼する	26.9
ホームページに掲載する	49.2
ハローワークから求人する	57.7
就職斡旋会社(リクナビ、マイナビなど)を通して募集する	27.5
その他	4.9

表11 平成30年4月管理栄養士・栄養士の新卒採用試験予定(%)

項目	364
予定している	12.4
検討している	9.6
未定である	28.8
予定していない	41.5
職種として必要性がない	6.9

3. 企業訪問による就職情報の収集

平成28年8月から平成29年3月の間、参与が企業訪問をして平成29年度の求人に関する情報を収集した企業数は、管理栄養士が在職し求人が予測される企業とした近隣の病院84件、社会福祉施設59件、その他11件の計154件であった。その求人情報並びに本大学の卒業生の活躍状況の情報は毎回科会にて報告して教員が情報を共有した。その内容を示す。

- 1) 管理栄養士としての求人は、一般企業のように定例時期に多数の採用計画はない。よって、求人情報を密に集めること。直接、病院等の施設見学を働きかけて就職情報を得るという地道な就職活動を行うことが基本となる。
- 2) 求人時期は、中途採用の形があるので、求人情報を常にみること。
- 3) 給食施設には直営と委託会社がある。職場の運営方針によって管理栄養士の新規採用には管理栄養士国家試験を合格することを応募要件とすると明記されているケースがある。
- 4) 就職試験では面接のみで採用決定の判断をすることは難しい。企業は学生に第一に求めていることは、食に関するセンスとモチベーションの高さがあること。よって、面接時には食に関する体験をもととした考え方を面接官にしっかり伝えることが求められる。
- 5) 病院食・介護食をきちんと作れること、さらに、患者の食べ方に関する研究をしておくこと。また、食材の鮮度・旬・価格などや食材の見分け方、基礎学力である計算力は必修要件である。4年間の大学生活でしっかり学修をしておくこと。

上記に示す、就職支援の情報は、各チューターが共有し、学生への細やかなキャリア支援が可能になるよう、科会にて、キャリア委員はその都度情報を報告し共有できるよう努めた。

4. キャリア支援マニュアル等の作成・研修会の開催

学生が就職活動で作成する資料には自己分析・自己PR等の履歴書、エントリーシート等がある。その雛形とマニュアル等を参与が中心となって作成した。そのマニュアルを学生が自由に閲覧できるように学内のWeb情報管理システムに掲載し、さらに、マニュアルの活用に関する研修会をつぎのように開催した。学生対応は3回、平成28年10月18日、19日、11月29日、情報室のパソコンを用いて開催した。さらに、教員対象の研修会は12月16日、19日、21日の3日間、同様にパソコンを用いて開催した。さらに、各チューターはゼミ生の個人面談を行い学生の就職希望を収集した。学生の就職希望を調べた後に、参与2名、キャリア支援室長、該当のチューター、学部長、学科主任並びにキャリア委員によるマッチングの会議を平成29年1月27日、2月10日、3月10日・24日の4回開催し、1回の会議で、学生1～3名の就職情報を交換して学生へのキャリア支援に努めた。

5. キャリア教育の先進地大学の視察

広島県内のF大学に、視察依頼をして了承が得られたので2名で訪問をした、

訪問前に、F大学のHPより、就職に関するキャリア支援体制を調べた。貴大学は開学40周年の歴史をもつ大学で、管理栄養士養成課程の開設は定員50名として平成20年に開設し、平成27年度の就職率は学科別ともほぼ100%であった。

学生総数は約4200名、就職課の専任職員は6名、そのうち1名は全国に166名しかいない国家資格・1級キャリアコンサルティング技能士の資格を保有する職員を配置して高度な個別相談や面接練習を常時支援している。面接時間は、緊急時には職員の勤務時間外にも実施している。卒業生には企業経営者・会社役員が多くおり、就職支援体制の協力依頼を要請している。学生の就職支援体制は「教育課程の成果」の指標として位置づけ、1年次より初年次教育を4年次まで継続して支援をしている。

就職支援の2本柱として、学生への就職活動の支援をすること、学生へのキャリア形成のための

キャリア形成支援委員会を設置している。さらに、ゼミ指導担当教員が学生に、きめ細かい就職指導を実施している。就職担当職員は、企業先に個別訪問を行なって就職活動情報の収集を業務としている。就職課の就職指導には求人情報の収集・提供、就職ガイダンス、保証人との就職懇談会の開催、卒業生による就職体験発表会の開催などがある。就職相談としては、履歴書の書き方の指導、個人面接・集団面接・グループディスカッションの指導、さらに、ハローワークから派遣されるジョブサポーター、国家資格・1級キャリアコンサルティング技能士を保有する職員による就活相談を開催している。学生はポータルシステムのWEBで就職支援を受けとることができる。また、学生への就職活動に関する情報は、就職委員、ゼミ担当教員、就職課教職員が共有し、学生1人1人の就活状況・面談記録等をお互いに交換できる体制を構築している。さらに、学生は就職活動前、希望業種・職種・企業名を登録しておくに関連する求人情報が学生個人のメールアドレスに届くシステムがあり、これを活用して学生は希望職種に沿った企業を閲覧することができる仕組みが構築されている。就職ガイダンスは、WEB就職システムを活用して5月～2月の間に8回開催している。その他の特記事項として、管理栄養士養成課程のカリキュラムでは、臨地実習のすべてを3年生に履修でき、4年生では就職活動・業界研究並びに管理栄養士国家試験受験対策に集中できる体制になっていた。平成23～27年度の就職の内定率は、管理栄養士・栄養士職65%、栄養士の知識を活かせる職場13%、その他・一般職18%、進学4%であった。さらに、平成24年～27年までの就職先には委託給食12%、福祉施設12%、食品9%、ドラッグストア8%、病院6%、行政4%、保健所3%、教職関係2%、食品系14%、進学4%、その他26%であった。

今回、管理栄養士養成課程での就職支援に関する実態を把握することができた。今後、本学科での課題はキャリアセンターとの就職支援活動の連携をより充実することが期待される。本学科のカリキュラムには実験・実習・演習・講義の科目数が多く、1～3年生の時間割には空き時間が殆どない。また、就職活動支援プログラム（木曜日5時限）への参加者数が少ない。キャリアセンター委員会において、学生の就職支援として栄養士職種に詳しい専門員を要望したので、今後を期待したい。

IV. 学生・企業の就職活動に関する調査結果の成果と今後の課題

「キャリア (career)」の語源は、ラテン語の「車道」を起源とし、「人」が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出し、社会貢献を果たし自己実現を進めるキャリア支援であるといわれている¹⁾。今回、本学科1期生のキャリア支援の調査研究を平成28年度管理栄養学科の重点事業としての報告である。

本学科にはキャリア関連に精通した教員はいないので、参与2名の協力を得て、キャリア支援に関する調査研究を進めた。本学のキャリアセンターは平成22年4月より専任教員が在籍するキャリアセンターが開設し就職・進路支援を円滑に行う事業を担当している。しかし、栄養士業務に精通した専門員は在籍せず、今回は1期生であるから先輩がいない。企業に参与が訪問して施設等の就職に関する情報の収集やキャリア支援マニュアル作成等を開拓精神でおこなった。

学生はキャリア形成科目（4単位）のキャリアデザインとキャリアデザイン演習Ⅰを履修し、3年生は正課外の就職支援活動プログラムを受講するが、実習・実験の科目が多く課題提出も多くあるためか、就職支援活動プログラムへの参加数の少ないことが課題であった。そこで、正課の講義等と平行して学生自身が自発的に就職活動を進められるように参与が作成したキャリアマニュアル（自己分析・履歴書・エントリーシート等の雛型）をWeb情報管理システムに掲載して学生が自由に閲覧できる体制をたてた。また、就職先と学生とのマッチングが重要であるから、教員間での就職情報を共有

するキャリア支援活動を推進した。3年生は企業研究、履歴書・ES作成を12月頃までに準備して1月の期末試験後、2・3月に合同企業説明会を端緒として各企業訪問をした。その導入部として本学科3年生のみを対象に、学内で企業からの説明を2月27日（3社）参加学生41名。3月7日・3月1日（2社）参加学生23名であった。12月頃のインターンシップや全学生対象の学内企業説明会に3月13日より3日間参加し、入手した資料を元にして学外での合同企業説明会へと進めた。4年生は病院・事業所・保健所等の臨地実習が6月より11月の間に3週間あるので、それらの臨地実習前には就職内定をもらいたいと考えて就職活動を進める学生が多かった。しかし、病院からの求人票は10月頃までではなく、それ以降も件数は少なかった。

4年生に就職活動状況を聴くと、「3月の学内合同企業説明会後に学外合同企業説明会として県内外を含めて3回程度参加して延べ10数社程度の企業を訪問した。就職試験日等の情報の中から、同日に予定するケースもあったので、手帳に記録して綿密にスケジュール管理を行って企業を絞った。訪問日には決められた時刻に遅刻しないこと、住所の確認をしっかりと、1時間前に到着することを心がけた。」また、「キャリアセンターの面談担当の先生より面接について懇切丁寧な指導を受けて実践したので、スムーズに面接をすることができた。」と感謝の念を述べていた。学科教員は授業・臨地実習の事前事後・巡回指導等の毎日で時間が足りない状態にあるので、キャリアセンターの就職支援担当の方には是非とも管理栄養士の就職先開拓をお願いしたい。また、キャリア教育や専門教育の授業の中で、生涯にわたり自分の役割を果たすために大学で専門領域について学修しながら、自分と向き合い、自分の仕事や人生に意味を見つけ、自分の役割・価値や社会との関係を見いだしていくための展望を通じて学生自身が選ぶ態度を形成できる教育²⁾を学生に伝えることが大切であると考えられる。さらに、学生は就職の内定を受けて以降も4年生の3月の管理栄養士国家試験に向けて受験対策が続けられている。企業によってはこれに合格することが要件とされているので、頑張って精進をしている。また、病院を希望する学生は現在も地道に病院に電話をかけて施設見学を依頼する等の行動をとって就職活動を進めている。3・4年生を対象とするキャリア体験談の会を平成29年4月29日に、近隣の管理栄養士養成校の卒業生を講師に招聘して開催した。学生はこれまで身近な人から就職活動や管理栄養士国家試験受験の体験談を聞くことがなかったので、質疑応答も多く出て、とても活発な意見交換会となった。これより、先輩から後輩に直に、体験談を聞く場が当事者にとって有意義な会であり、就職活動の動機付けに繋がることを強く感じた。

平成29年10月時点での内定状況は約8割で、現在もキャリア支援活動中である。病院関係の求人は10月以降もあるので、卒業式までには、全員が自分の目指す職場に就職内定をすることを目指してキャリア支援活動を継続していきたいと考えている。

終わりにあたり、本調査研究は本学科の平成28年度重点事業として実施した報告書である。調査にご協力いただきました皆様方並びにご指導いただきました参与の斎藤 寧様、重枝 一生様に感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 文部科学省におけるキャリア教育・職業教育の取組（平成26年12月）
- 2) 厚生労働省委託大学におけるキャリア教育プログラム事例集（平成26年3月，三菱UFJリサーチ & コンサルティング）

〈キーワード〉

管理栄養学科，1期生，キャリア支援，実態調査，企業訪問

上村 芳枝（健康栄養学部管理栄養学科）
小田 光子（健康栄養学部管理栄養学科）
前大道教子（健康栄養学部管理栄養学科）
横山しつよ（健康栄養学部管理栄養学科）
古川 真一（健康栄養学部管理栄養学科）
平田 健（健康栄養学部管理栄養学科）
寺岡千恵子（健康栄養学部管理栄養学科）
川人 潤子（健康栄養学部管理栄養学科）
沖本 久恵（健康栄養学部管理栄養学科）
宮原 祐徹（健康栄養学部管理栄養学科）

（2017. 10. 31 受理）